

# 組合による避難確保計画

山梨県  
富士河口湖町

# 富士河口湖町の様子



H15年11月15日

河口湖町  
勝山村  
足和田村

合併

H18年3月1日

上九一色村  
南部地区

## 富士河口湖町

人口: 26,645人

世帯: 10,909世帯

面積: 158.51km<sup>2</sup>

R2年8月1日現在

# 富士河口湖町の様子



河口湖



西湖

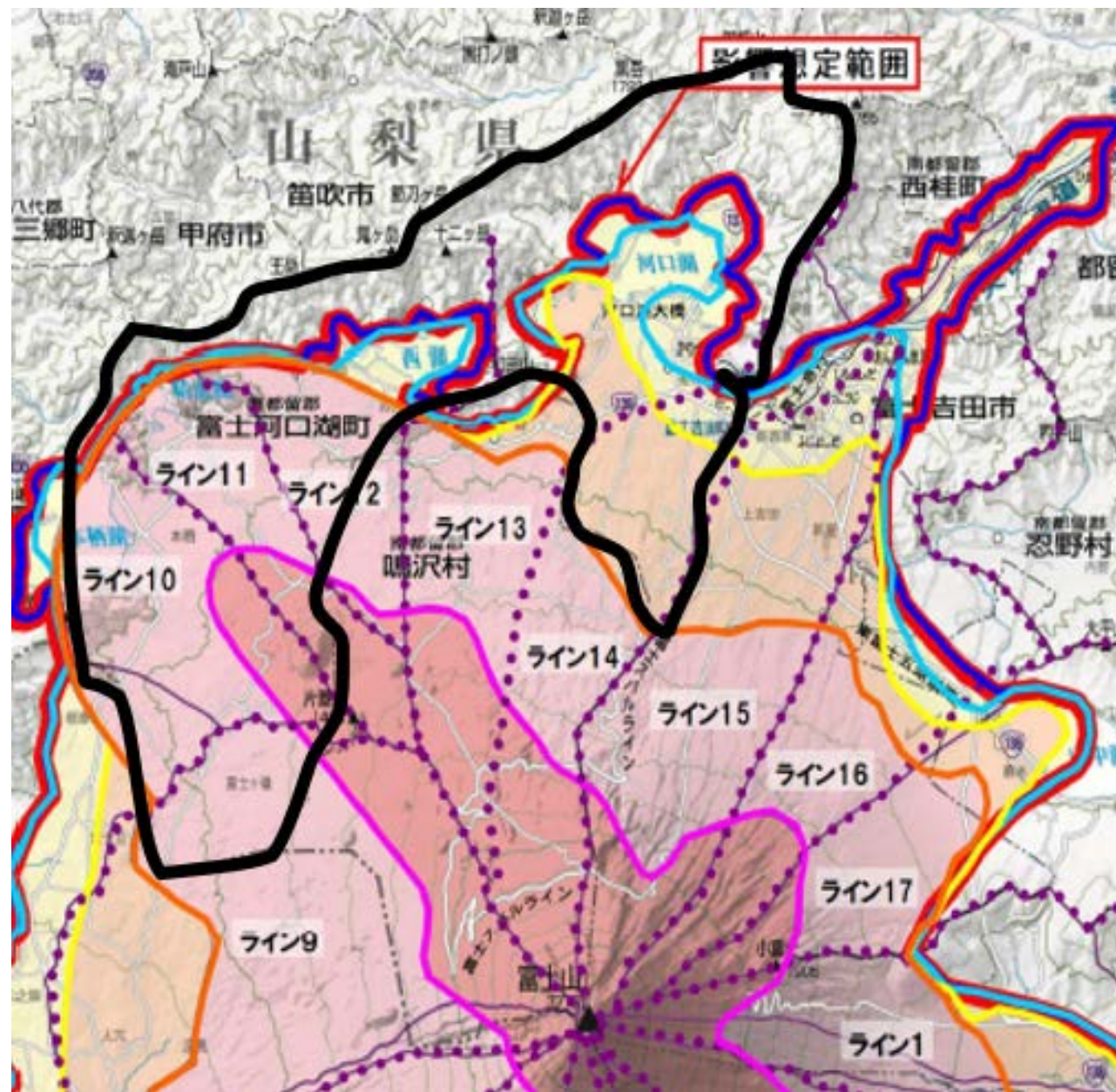


精進湖

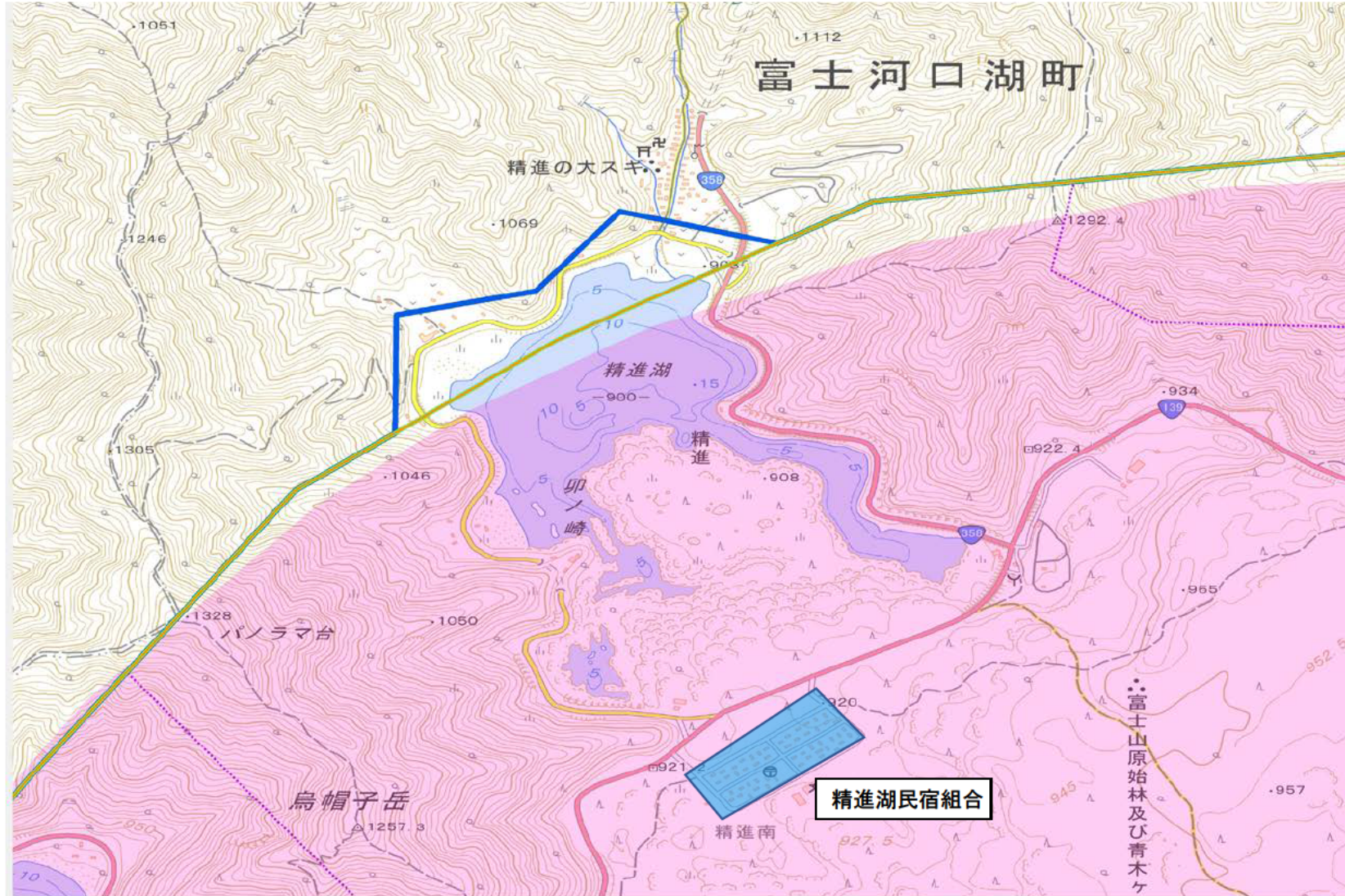


本栖湖

# 富士河口湖町の様子



# 精進湖民宿村



# 精進湖



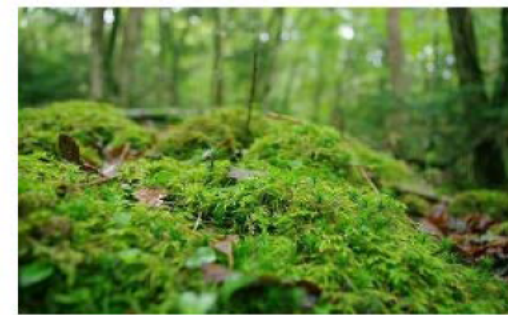
富士五湖の中で一番小さい湖ですが、その景観については、日本の明治時代（1895年）に英国人ハリースチュワートホイットウォーズが「世界一美しいショージコ」、「東洋のスイス」として海外で紹介しました。

この風景に魅せられたホイットウォーズはここを永住の地と決め、「精進湖ホテル」を建設。その後、海外への情報発信の結果、明治末から大正、昭和にかけて精進湖は日本有数の避暑地「ジャパン・ショージ」として、多くの外国人観光客が訪れるようになりました。皇太子時代に英国を訪問した昭和天皇が英国人から精進湖について問われた、というエピソードがあるほどです。



インターハイ全国大会の500m・200m競技をはじめ全国規模の大会を毎年開催しています。

ロンドンオリンピックに出場した藤島選手が子供の頃から練習していた競技場です。



富士山原始林トレイルラン

10月第3日曜日（今年度は新型コロナ対策で中止）

計600人（ロング約25km 400人、ショート約16.5km 200人）

# 精進湖民宿村

## 昭和41年足和田災害

### 足和田地区

死者81人 行方不明者13人 負傷者657人  
全壊家屋79棟、半壊家屋11棟、床上浸水28棟

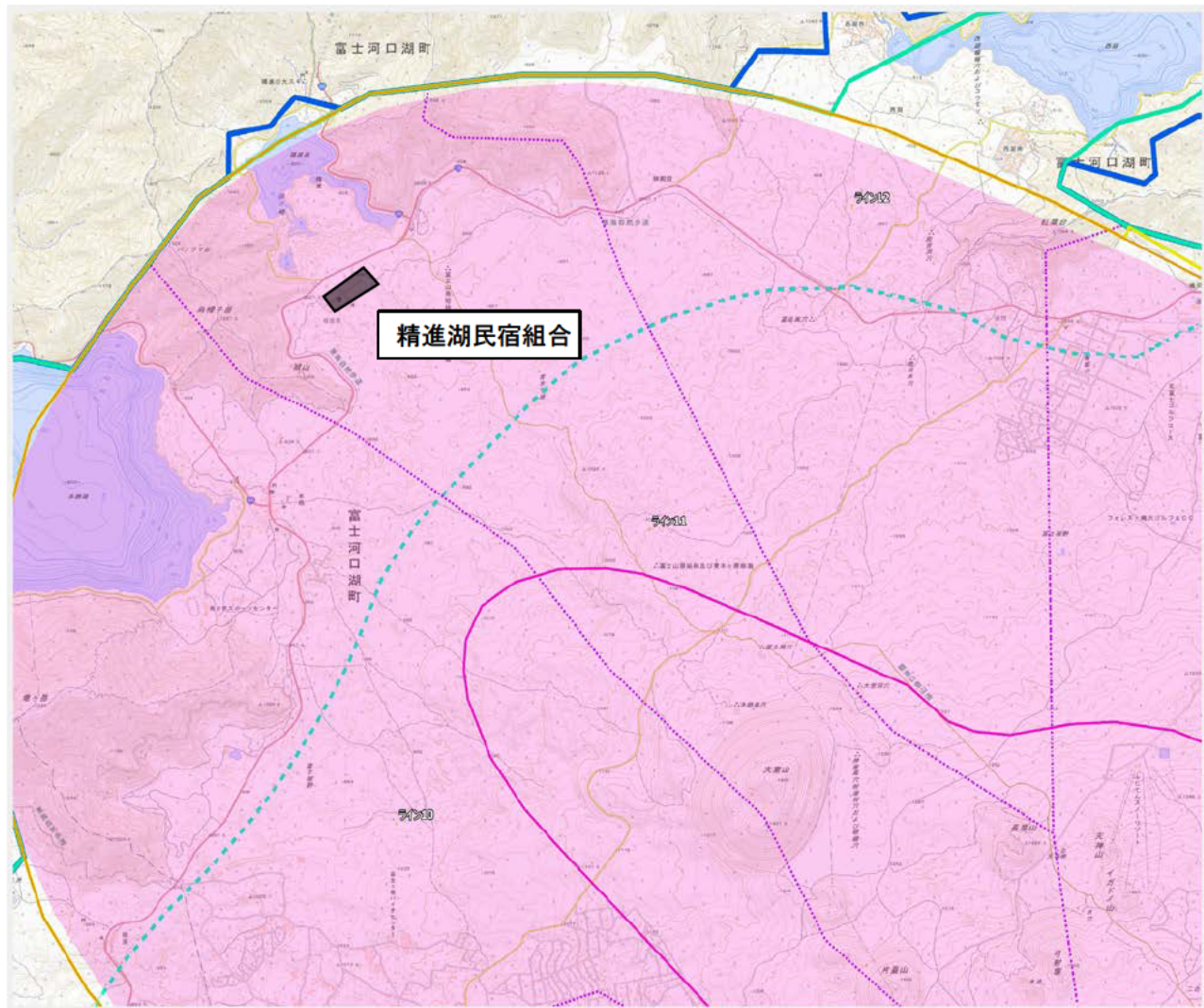
### 上九一色地区

死者20人 重軽傷者26名  
家屋流出15棟、半壊家屋4棟、床上浸水62棟



日本で初めて「土石流」という言葉が使われた大災害

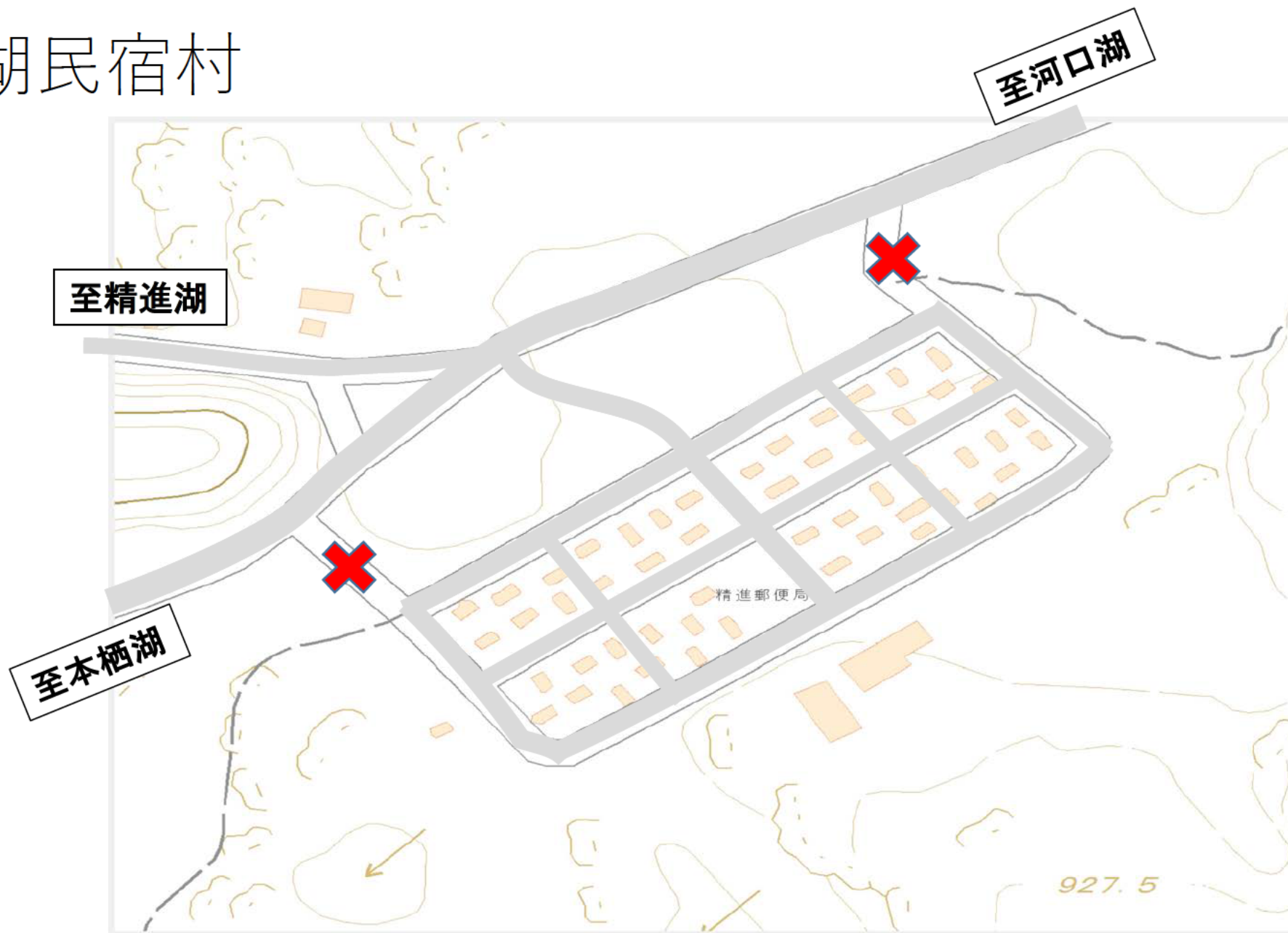
# 精進湖民宿村





# 精進湖民宿村

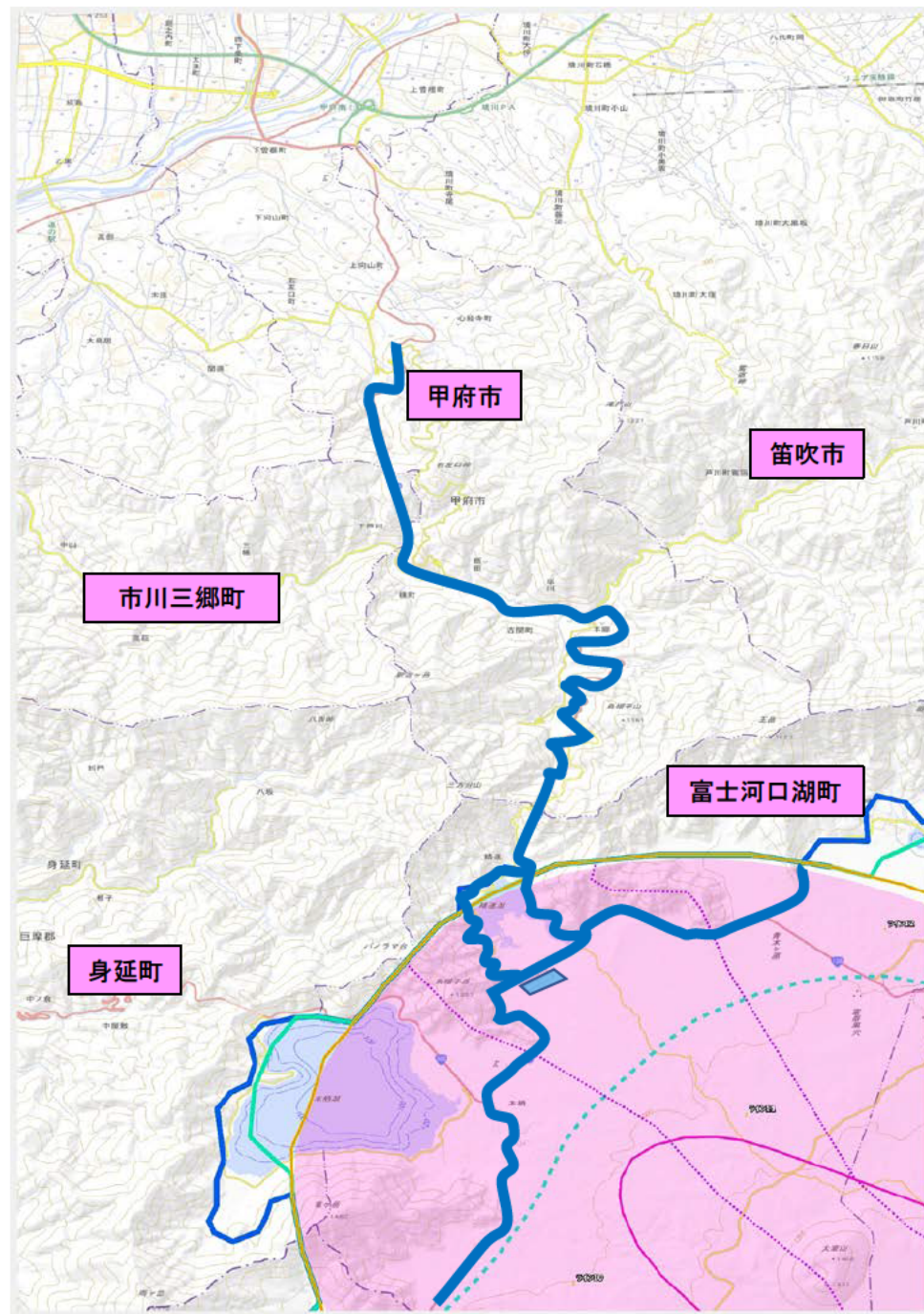
定住者  
156名



# 精進湖民宿村



# 精進湖民宿村



# 精進湖民宿村

業種	施設名	従業員数又は管理者数	最大利用者数
宿泊施設	① 民宿 ○○	4人	32人
	② 民宿 ▽▽荘	5人	30人
	③ 民宿 ●●荘	4人	34人
	④ 民宿 ■■荘	3人	30人
	⑤ 民宿 ◇◇荘	3人	31人
	⑥ 民宿 ▲▲荘	3人	30人
	⑦ 民宿 ◎◎荘	2人	30人
	⑧ 民宿 △△△荘	5人	40人
	⑨ 民宿 □□□荘	3人	35人
	⑩ 民宿 ◆◆荘	2人	20人
合計		34人	312人



# 避難確保計画策定

家族経営（経営者も高齢化している）の小規模施設

計画が策定できるのか？

避難が誘導できるのか？

避難確保計画の検討支援を希望する地方公共団体の募集（内閣府支援事業）

富士河口湖町には避難促進施設の対象となる施設が30ほどある。近年は外国人観光客も増加しており、賑わいをみせているが、小規模施設においては対応に苦慮していることも少なくない。特に**富士山噴火が発生した場合、小規模施設で避難対応することは難しい面もある**ため、今回の事業により、小規模民宿の組合単位で検討を進めたい。本支援事業を通じて具体的な避難確保計画の作成方法を学び、他の施設にも役立てていきたい。

# 避難確保計画策定

避難確保計画の検討支援を希望する地方公共団体の募集（内閣府支援事業）

## 第1回（R1.7.23）

避難確保計画の必要性など概要の説明

⇒自分のこととして捉えていただく

## 第2回（R1.10.24）

避難確保計画の必要な内容を個別具体的に説明

⇒地域共通の課題であることを認識していただく

## 第3回（R1.12.17）

整理された対策を避難確保計画に落とし込む

⇒目に見える形にして共有する



## POINT

- ・お客様に安心して来ていただく
- ・自分（施設）の限界を知っておく
- ・地域全体で立ち向かう

# 避難確保計画策定

## 富士山噴火時等の避難確保計画

地区名称：精進湖民宿組合

令和元年12月

業種	施設名	従業員数又は管理者数	最大利用者数	施設周辺にいる登山者・観光客等(左記を含まない)
宿泊施設	① 民宿 ○○	3人	32人	
	② 民宿 ▽▽荘	4人	30人	
	③ 民宿 ●●荘	4人	34人	
	④ 民宿 ■■荘	3人	30人	
	⑤ 民宿 ◇◇荘	3人	31人	
	⑥ 民宿 ▲▲荘	3人	30人	
	⑦ 民宿 ◎◎荘	2人	30人	
	⑧ 民宿 △△△荘	4人	40人	
	⑨ 民宿 □□□荘	3人	35人	
	⑩ 民宿 ◆◆荘	2人	20人	
合計		31人	312人	※

# 避難確保計画策定

富士山噴火時等の避難確保計画

地区名称：精進湖民宿組合

令和元年12月

No.	施設名称（所有者等）	
1	★民宿	○○ (○○ ○○)
2	民宿	▽▽荘 (○○ ○○)
3	民宿	●●荘 (○○ ○○)
4	民宿	■ ■荘 (○○ ○○)
5	民宿	◇◇荘 (○○ ○○)
6	★民宿	▲▲荘 (○○ ○○)
7	民宿	◎◎荘 (○○ ○○)
8	民宿	△△△荘 (○○ ○○)
9	民宿	□□□荘 (○○ ○○)
10	民宿	◆◆荘 (○○ ○○)

代理順位	代表者名				
	★○○	▽▽荘	●●荘	■ ■荘	◇◇荘
第1位	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○
第2位	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○
代理順位	代表者名				
	★▲▲荘	◎◎荘	△△△荘	□□□荘	◆◆荘
第1位	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○
第2位	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○

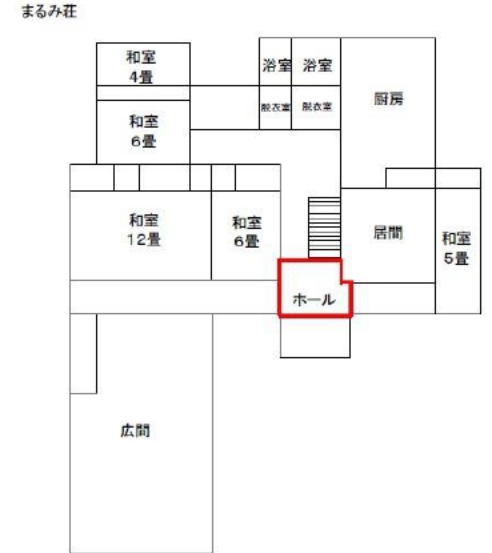
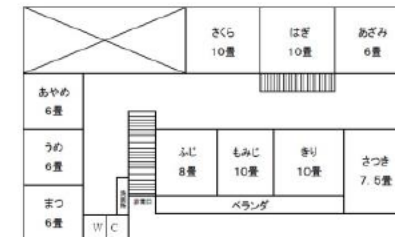
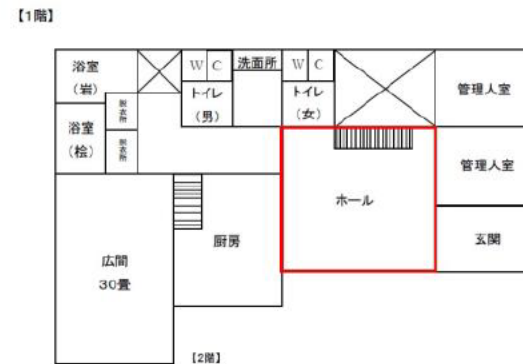
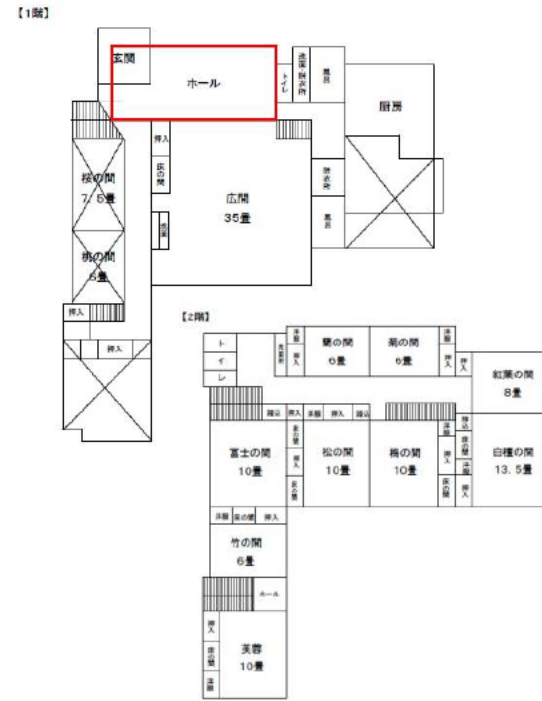
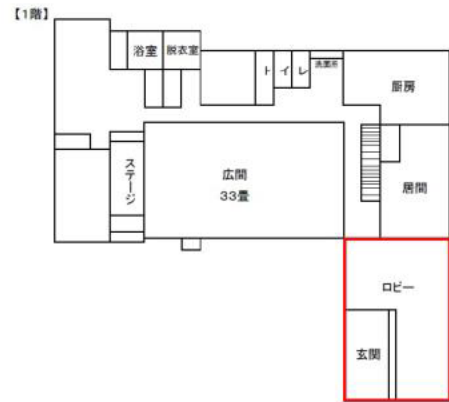
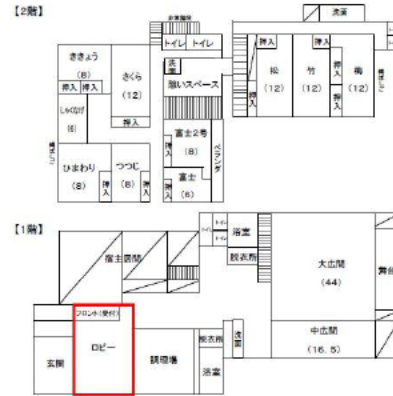


# 避難確保計画策定

## 富士山噴火時等の避難確保計画

地区名称：精進湖民宿組合

令和元年12月

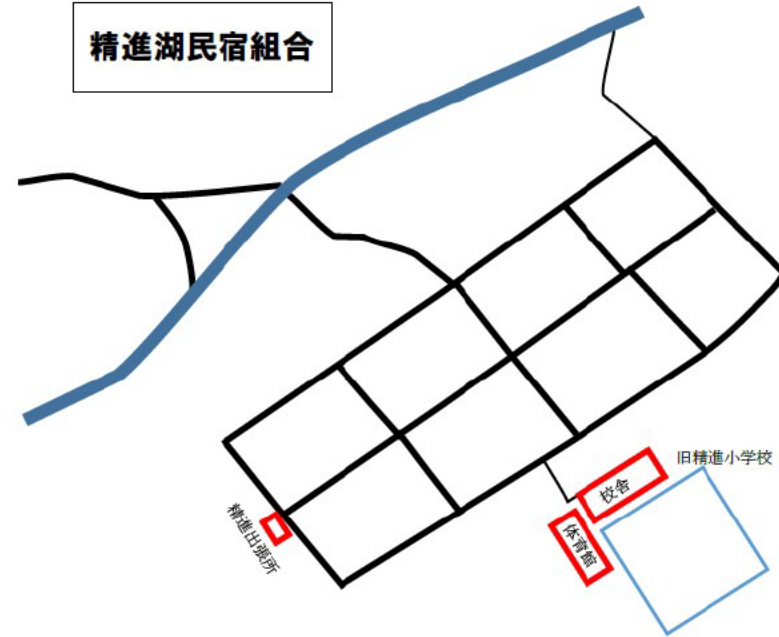


# 避難確保計画策定

富士山噴火時等の避難確保計画

地区名称：精進湖民宿組合

令和元年12月



# 観光施設が避難計画

災害時に安全確保

富士山直下で2000〜01年に低周波地震が発生し、周辺の危機意識は高まった。富士山の噴火を語ることは風評被害につながる。そうタブー視されたのは、かつての話だ。

「ここからスタート。完



▲ 民宿を訪れ、避難確保計画の概要を説明する浜防災監(右) (6日、富士河口湖町で)

壁ではないので、訓練を重ねてどんどん肉付けしていきたいましよう。6日午後、富士河口湖町精進の精進湖民宿村で町地域防災課の浜伸一防災監(61)が民宿一軒一軒を訪ね、オーナーたちに呼びかけた。

◆ 避難促進施設の指定と避難確保計画の作成状況

富士吉田市	21施設を指定済み。計画は未作成
富士河口湖町	最大26施設を6月までに指定。1施設は指定に先駆けて計画を作成
鳴沢村	新年度中に指定。施設数は検討中

多くの観光客が訪れる富士山麓の観光施設などは「避難促進施設」に指定され、噴火時に観光客らの安全を確保する役割を担う。精進湖民宿組合は対象施設として初めて避難確保計画を策定。この日、浜防災監らは町が助成して作った計画の冊子を手渡した。

多くの観光客が訪れる富士山麓の観光施設などは「避難促進施設」に指定され、噴火時に観光客らの安全を確保する役割を担う。精進湖民宿組合は対象施設として初めて避難確保計画を策定。この日、浜防災監らは町が助成して作った計画の冊子を手渡した。

防災の知識乏しく

町は6月までに最大26施設を避難促進施設に指定する。



青木ヶ原樹海を切り開いた精進湖民宿村

避難促進施設 御嶽山噴火を受けて2015年に改正された活動火山対策特別措置法(活火山法)で制度化された。市町村から指定を受けた施設には、利用者らを施設外の安全な場所へ避難誘導する方法などを定めた「避難確保計画」の作成が義務づけられ、避難訓練を実施しなければならぬ。富士山麓では、想定される火口付近や、噴石、火砕流、溶岩流が3時間以内に到達する範囲にある富士吉田市、富士河口湖町、鳴沢村の小屋や宿泊、観光施設などが対象となる。

# 避難確保計画策定

## まとめ

避難確保計画を作らなければいけない（活火山法だから？）

⇒理屈は分かるけど、何をやったらいいのかわからない

⇒なぜ作る必要があるのか？

避難確保計画はお客様へのサービス向上

⇒町も協力するので作った方が皆様のためになる

⇒作ってみたい

## まとめ

避難確保計画を作ったことは成果ではない

富士山（火山）と共存するための一つの手段である

一番の成果は経営者が富士山噴火に正面から向かい  
個々の限界を知り、地域が一体となって取り組んだこと

今回の成果を一過性のものにしないうために  
他施設についても計画策定に協力していきます。

まとめ

道徳なき経済は犯罪であり

経済なき道徳は寝言である

二宮尊徳

行政は法律を後ろ盾にして指導するのではなく、  
地域の方々と足並みを揃え、生活を向上するために必要なことに取り組む